

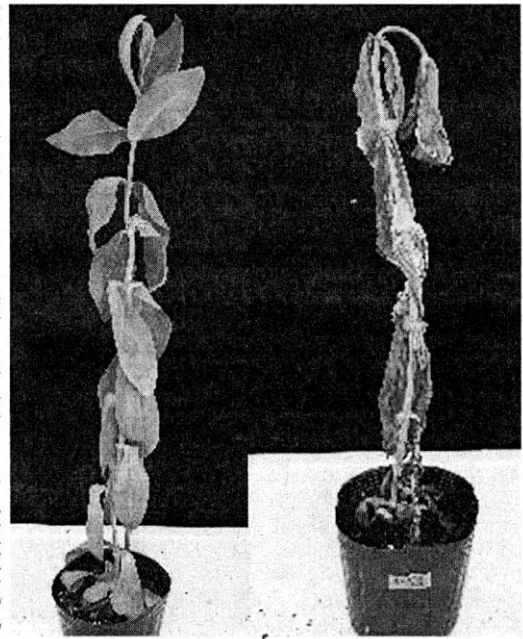


トルコギキョウの立枯病評価

モンローなど3品種 強い抵抗性を有する

トルコギキョウ栽培では、
Fusarium oxysporum (フザリウム オキシスポラム) による立枯病

が全国的に発生しており問題となつています。本病害は土壌病害であり、いったん菌が圃場(ほじょう)に侵入すると、菌を完全に除去することは難しくなります。そこで県内で栽培されている15品種について、本県での原因菌として優占種であるフザリウム オキシスポラムに対する抵抗性を評価しました。接種菌株は県内圃場から単離した強毒性の菌を用いました。菌の接種はガラスハウス内で行い、ビニールポットに植え付けた育苗苗の土壤に106胞子数/ミリに調整し



発病指数による立ち枯れ状況の違い

た菌液を1ミリリットル注(かんちゅう)接種し、70日目に立枯状況を調査しました。抵抗性程度は発病指数0～4の5段階で行い、その結果、「モンロー」「チアライトピンク」「セレブピンク」の3品種は写真左のように発病指数2(上位葉のしおれ)程度と強い抵抗性を有することが分かりました。これらの品種を導入することで県内の立枯病被害の軽減につながります。(県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 花き・生物工学研究室 主任研究員 植松紘一)